

# 勁草之節

宮城県農業高校 農場部

平成28年5月11日 発行

<http://miyanou.myswan.ne.jp/>

＊勁草之節(けいそうのせつ) 強風の中でじっと耐える強い草のように、困難な状況にあって自分の節操や信念を堅持し続けること。

## 平成28年度スタート ～歴史と伝統にふさわしい新生宮農の再建～

### 新入生241名が入学！！

春の足音がしっかり聞こえてきた今日、新入生241名を迎え、平成28年度の農業高校は新たな一歩を歩き始めました。そして、農業高校では、自分の「胃袋」を知って欲しいと思います。「胃袋」を知るというのは自分がどこまで飲み込むことができるのかを知るということです。つまり、自分の「胃袋」の強さを知っておくことです。この程度までなら消化できるが、これ以上になると無理だ、その大きさを意識しておくことです。食べられれば、とても体にいい物であっても、胃袋がそれに耐えられなければ、かえって体調を崩してしまいます。そのあたりの加減を知るために「胃袋」の強さを知る必要があります。では、それを知るためにどうすればいいのか？それは、絶えず挑戦をしていくことしかありません。安全策を採り続けていては、「胃袋」の本当の強さもよくわからないし、より強くすることもできません。常に他人と関わり、動植物との関わりの中で自分の「胃袋」の強さを見つけて欲しいと思います。



### 結いの精神で

校長 佐々木英一

桜の花も満開になりめっきりと春を感じられる今日この頃です。そろそろ水稻栽培の種まきも終わった農家もあるか思います。

本校でも多くの品種を栽培していることから、種まき作業も幅広く取っています。ひとめぼれ、ササニシキ、つや姫、みやこがねもち、まなむすめ（直播）といった品種を播いて行きます。5月に行われる全校田植えは3年前から復活し生徒・保護者の皆さんも大変楽しみに参加している本校行事の一つであり、手植えで行います。

農業機械がまだ普及していなかったころ、多大な費用と期間、そして労力が必要な作業を多くの農家の人達が各農家に集まり相互扶助の精神で「結い」として協力しあい共同作業をしていました。私も幼心にのどかな田んぼの中で、父や母がそして隣近所の皆さんが和気藹々と田植え作業をしている光景が今でも思い出されます。そして何よりも楽しみな道ばたで戴く昼食が美味しかったことを覚えています。時代は日進月歩進んでいますが農村文化に伝わってきた良き風習（精神・心）は伝えていくべきものと思います。また、本校も平成30年4月に新校舎開校と同時に新農場も完成し整備されることから結いの精神・心は大切にしていきたいと思います。

## 活動報告

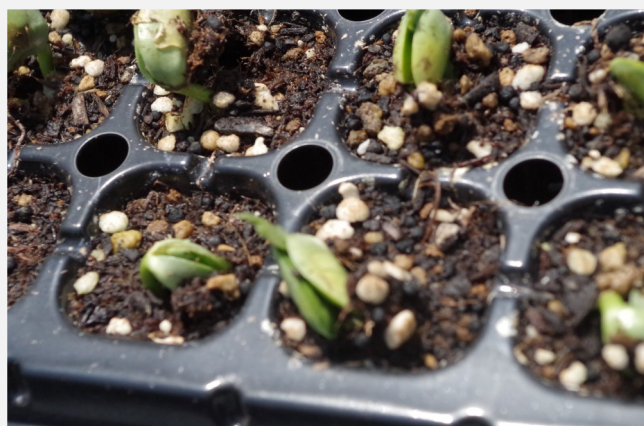
## なとり春まつりに行ってきました！



4月9日(土)、名取市市役所で行われた、なとり春まつりに行ってきました。春まつりでは、本校で製造した商品を販売しました。食品化学科で作ったイチゴジャム、農園科で育てたパンジー・ビオラ、特別栽培で栽培したコメなどを販売しました。販売開始時間前から行列ができ、多くのお客様が買いに来てくれました。今後も、地域の方々に宮農のことを知ってもらう活動を通して、新生宮農の再建、地域復興を目指した活動を続けて行きたいと思います。

## 収穫に向けて第一歩

春を迎え、一年生の実習ではエダマメの播種を行いました。コメの栽培では「苗半作」という言葉があります。意味は、コメ栽培の半分は苗作りで決まるという意味です。これは、コメだけでなく農作物を栽培する上でも同じことが言えます。エダマメの播種(はしゅ)では種子を植える深さ、種子の置き方、覆土(ふくど)のかけ方に生徒が気をつけながら播種を行いました。これからは、生育調査・栽培する技術を学びながら夏頃の収穫に向けて様々な実習を展開していき収穫したエダマメは販売実習で、名取が丘、岩沼、竹駒神社等で販売を予定してます。近々では、タマネギを5月中旬から下旬、ホウレンソウを6月上旬、トウモロコシを夏頃に生徒が収穫販売を行う予定です。どうか、宮農生を見かけたら、お買い求め下さい



### 編集者だより

今年度農場便り「勁草之節」の編集となりました、川邊雅希です。ここでは最近の農場の様子、そして何よりも生徒の活躍をPRしていきます。

## 5月のイベント

5月19日(木) 全校田植え(小雨決行) 予備日20日(金)  
5月25日(水) 校内意見発表大会